
超絶暇人 + 複雑家庭持ち = 地球破壊！？

雀羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

超絶暇人+複雑家庭持ち＝地球破壊！？

【NZコード】

N2707D

【作者名】

雀羅

【あらすじ】

超人＆暇人の星染緋緒と、複雑（…？）な家庭を持つ近衛陽聖の織り成す地球破壊計画ストーリー！

其ノ式

… なあ、 地球割つてみねえ？

その言葉から、私の心の翼は羽ばたき出したんだ。

「てゆーか、マジだるいんですけどおー。なんかー、マジないしー、
みたいなー？」

教室でそんな言葉を大声で発しているのは、私こと星染ほじぞめ 緋緒ひお。

ちなみに今日のファッショնは膝下スカートに黒髪二編み、丸メガネ。

…いや引かんといて下さいよ、暇だつたんだもの。

まずは、客観的に見た私を紹介しよう。ということで、みんなに私のことを聞いてみよー、イエー！

A君『頭いいよなー、学年一位キープだし。でも変人』

B君『こつ、この前のメイドは萌えました！かわゆす！！でも変人

キタ（。。）』

Cちゃん『親しみやすくて、友達思いのめっちゃいい子。けど変人

だね』

Dちゃん『面白い発想とファッションセンスやで ま、変人やけど

とのことですね！

ちちちっち、まあ一つたくみんな、私のことをわかっていないねべ
イベ（きりんツ

それでは、自分で見た自分像を紹介しようかな。

私を表すには一文字で事足りる。それは【暇】という文字。

【暇】だから、それを潰すために勉強している。学年一位キープの理由は、ただそれだけ。

【暇】だから、それを潰すために肌の手入れやメイク研究をした。可愛いと言われる理由は、ただそれだけ。

【暇】だから、ファッショントカで遊んでいる。ただそれだけ。
…あれ、親しみやすいと友達思いと面白い発想の説明がつかないよ
！どーしょ、どーすんの、私！！（← eカードプリィイイツズ
！）

続くウ！

其ノ丹

続いたア！

やつたあイヤッフウ！これで「… カードは使わなくて済むかも
しない！選択肢が減るのは良いことなんだよ（親指グツ

「元来持つてた性格だろーが。それくらいわかれ。… つたく、学年
1位のくせしてよ（ぼやつ）」

「おーう、いっつナイスウウ……じゃないつスよ……
…あれ、急に教室にブリザード（ビリピューン

ま、そんなもの華麗にぐるりとスルーすることにして（ わざとじ
やないよ…）

「なあーんでも私の心を読んでんのぞー…ああ、本職エスパーですかそ
うですかこの近衛金鶴め」

お、なんかすうじに憐れんだ田で見られてるよ私。

何故だ、何故なんだい金鶴くん…わかるよいつな説明をトモニギブミ
ーッ？ ……わや（ボツ

「やめやがれアホ女。つたく、あんたにわかるよいつな説明し
てやるよ。まあ、エスパーじゃねえ。あんたが全部口に出してただ
けだ。

次に、金鶴じゃなく陽聖だ。なんだよ金を生み出す鶴つてことか？
で、（H）つて何だよ。エスパーの略か？！。ちがーつつの。

最後に……、なんで頬を染める必要があるんだよー。」

「金の鶴じゃないよ金ヅルってことだよ、気付いてよー」
まつたく、ツツコみは速度が命だつてのに何だあの速度。亀もハワイもびっくりだよーそして私もびっくりだ！

……あ、緋緒島とかできないかな。若しくは星染様島。むー、緋緒様最高島とかどうか「おーい、戻つてこーい」

*

「おー、用件は向だ。聞こへやらないともないぞ。ほれ、苦しうなこ、嘗てみよみよみてよみよ

え、さつきまでなんか空想の世界にふわふわ飛んで行き（逝き）かけだつたつついのに、戻つて来んの早つ！てか、何であんな態度で力くなつてんだ！？やばい、なんか語尾も気になる、つつこみてえ

「ああ、その」となんだが

「……つ！？何ー故ツツコまないんだい！？」

えええええ！？何ー故を『なにーゆえ』と発する人は普通いねえよ！ていうか見たことねえよ！ああもう、キャラ壊れるからに決まつてんだろうーが、つたく…。ツツコみたいのにつつこめない俺の気持ちもわかつてくれよこんちくしょおおつ（ぐはあ！

「は？俺そんなんしねーから。で、用件言つていいいか？」

「…うん、話は聞いてないよ、やつだ」

なんか凄い『興ざめ』みたいな顔されちまつたよ！陽聖ダメージ
3くらつたんだけど！まだピッコンピッコンピコリン「さるほどで
はないから大丈夫ではあるんだけどな（親指クイック

ふふん、俺様の体力ナメンなよ？あ、けど心は傷付いた。だつて陽
聖さんの心はちつぽけだから。オイそこお！『ツツコミキキャラなの

に』とか言つた！ツツココでも心が傷付きやすかつたりするんだよ。
キャラの差別イクナイ！（せまざま）

「分あ、也球罰ひこなえ？」

卷之三

「つて即答かいいーーー（ズビシッ）（（...あ。））」

*

よーししゃシッコんでくれたよワーライ シヤニセバ、シッコ!!
なこと悲しいし悲しいし話ぐだぐだつたんですよー。
おつと、これは裏話だから他のみんなには秘密だゾ (キヤハ!)

「あ、んで何だっけ。豚丸焼きにしてみねえ? だっけ。うんいによ,
ひのペスをアタマメハ。そしてうちの丸太と繩もアタマメハ」

「こや違つかー。そしてペス提出しなくていいからなー? へあつわ
いすおおお(可哀相)だろ! ?」

8

「オーハ、ニニシッコ!!。これを求めていたのよねー。」

「地球割るんだじょ? しうがなーな、やつてあげるよー。まら、
一緒にジャンプして地団駄ふんでみな?」

そつまつと、陽聖は不思議そうな顔をして、ジャンプして地団駄を
踏んでくれる。

あー、お馬鹿なシッコ!! もいわね。これからはシンボル(つるつ
んデレーレ)にかわって、アホッコ!! (アホなシッコ!!) が流行る
かもね、いいえ、流行らせせてみせる... - (ぐつ

「な(ダンダンダンダン)あれって意味あるのか?」

「あるわけないじゃん？」

「つはあああー!…? (すつてんこじつ)

あ、最後のは陽聖が「ケた音ね。一昔前のギャグをこんなに上手く取り入れた奴、久しぶりに見たわ。

「ちょつ、おま、はああー?…じゃあなんぞ言つたんだよ

「面白かつたから?」

「聞くなあああー!…」

おーっと、陽聖いじるのも程々にしないと、折角の逸材が逃げちゃうよね。やうやく本筋の意味を…

「嘘ウソ。意味あるからセー

「…何だよ」

「地球割るため てへつゝゝ」

言えないな。だって無いんだもんー!

*

うつわ、ダメだ。何か俺はすぐ関わってはいけない物体と出会ってしまったみたいだ。

いや、まだ大丈夫なハズ！俺は何も見てない、何も聞いてない、何も存在しない（現実逃避）

「ねえねえ」

「ナンデスカ？つか、俺の崇高な思考を邪魔すんな」

よし、キャラ戻せた！俺ったら、やれば出来る子じゃん！？
うっし、このまま頑張ろ。

「なんで割りたいの？」

つ、なんか、マトモになつた途端に嫌なところ突いてくるな。こいつが暇そりだからって、頭いいくこと忘れて油断しそうだかな。
なんかめっちゃ見てくるし、言わなきゃ協力してくれなさそうだし。

「言わなきゃ、ダメか？」

「言つてくれた方が協力しやすいんだよねー」

あー、しゃーないか。なんか、言つしかなさそうだしな。

「実はな…、親父の意志を継ぐためなんだ。」

親父は無類の鉄道好きでな、俺に色々な事を教えてくれた。それで、壮大な夢を語っていたんだ。

もしも地球が割れたら、それをレールで繋いで世界を鉄道で救いたい…ってな」

「え、ええーと…、お父さんは？」

「いつの間にか借金の保証人にされていて。んで借金した奴が蒸発したから親父に全部のしかかつて。それで、それで親父は…つ！」

「…」「めん。そこまで聞いたら、もうこいよ。辛いこと喋らせたね

「いや、そこまで話してわかってくれたのは、お前だけだよ…。親父が泣きべそかいて、家の庭に穴を掘つてその中に引きこもつている、ってな」

*

…え、あれ？「くなつたんじゃなくて、引寄せもつたの？」
りつて、あのちよつと前にブーム来たアレ、だよね！？
てか、こいつ（陽聖）の家つてお金持ちじやなかつたっけ…？
そう想い尋ねたところ

「え、だつて借金全額返済したし」

とこいつだとでした

…こやいぢに、ひよおーつんびり待てーーーなんかおかしくね？

いや、明らかにおかしいよね！？

「じゃあ、なんで陽聖がお父さんの意志を継ぐの？借金返せたなら
大丈夫じやんか！」

「え、引きこもつ癖がつこいやつて、六の中ド田々電車のプラモガ
ル作つてんだよ」

うつわー、いろんな意味で悲惨すぎるなまつたくうー（ぱぱー）
つ

「んでそれで、親父を穴から出すために、地球割つて鉄道
で繋げうかなつて思つてんだ。」

そしたらよ、きっと田々キラキラせいで出てへるはずだから…。少
なくとも、俺はやう信じてる」

え、陽聖サンなんかシリアスむービー！？駄目だ、あたしこんなんで
シリアスにならざることはできないよおおーつていうか、どう対応
していいのかわからない（きらーん
んんん、誰かへえつるべえつすむいいいいん！

「あ、んでも、協力してくれねえ？」

おっとー、ヘルプじゃなくて更に混乱させる声が来ちゃったよ。
ビリショウ、ビリショウ、むむむーんみむーむむつんむつ……と唸
つていると

「暇なんだろ」

「イエス！」

…あらり、条件反射つて感覚すいー！

其ノ貢

*

おお、本当だ。あいつの友達から『渋柿のよつに渋りやがつたら、暇の一言で元通りだよドッキュン』って言われた意味がやつとわかつたぜ。やっぱリサーチつて大切なんだな偉いぞ俺vv(ぴーすぴーす！)

まあ、そりやつて緋緒をからかっている友達も友達か。えーと、あれだあれ、類は友を呼ぶ？

「つて、おおお俺はあんなのとは類友じやねえからなああ…つてキャラ崩れたおうまいがつ！」

「…ねえ、一人ノリツッコミはやめてくれないかい？君は君で寂しいのかもしれないが、見ているだけの私はもつと寂しい。まるでウサギさんのように、君の放置ふれいのせいでの世からサヨウナラしてしまうかもしれないじゃないか。

俗にいう、ブロウクン ハートだよ」

「それは失恋だ」

なんか、こいつと話してると自分が更に馬鹿になつていくよつな気がするな。

なんでこんな奴が学年一位なんだる……ぐすん(遠い目

キーン コーン カーン コオオン

つて、予鈴鳴つてんじゃねーか。そういうやあ、次の時間つて数学の小テとかいうもんがあつたなー

「ええええええ！じゃつ、じゃあ考えといてくれよーー？」

そう言い残し、取り敢えず公式を詰め込みに自分の席へと戻った。

緋緒も同じく慌て出した…わけはなく、一瞬目を見開いてクツクツと笑いながら

「あいつ馬鹿だ。馬鹿だ！ヒヤツヒヤツヒヤツヒイイーーーー！」

…心外だ。ていうか最初の大人しい『クツクツ』は何処行つたんだよー？

*

今は英語の授業中だ。‘つづ、つまらん。ひーまあーだああん！’
そういうえば陽聖が最後に考えとけとかなんとか言ってたなあ。

ちなみに陽聖は今、現在進行形で真っ白だ。…真っ白いんぐ？ 真っ
白っている？

英語の小テストが始まった瞬間に真っ青になっていて、終わった瞬
間には灰になり飛んで行こう（逝こう）としていたが、周囲のク
ラスマイトの努力によってビックにか白くなり、灰となるのを堪えた
ようだ。

…くあー、暇だ！なんか暇つぶしはないか！？思い出せ緋緒隊員！
しつかりしてください緋緒隊員！
ハツ！！

「プロジェクト参加決定！キャッホホオオイ」

「こちら星染！訳してみる、できなかつたら廊下で星座だ」
と私に向かつて先生の怒鳴り声が飛んでくる。

「これ解いたことある！塔大の入試でしょ？」

『そしてウナギはまるで風のようにぐねりぐねりと去つて行つた。
ちなみにその風は、春の麗らかな口にザアッと駆け巡る、あの気持
ちの悪いような良いような風のことである』だよね』

「…あつとる。席につけ。

あーあ、誰かこいつとめてくれよ。もつワシには無理じゃ、すでに突っ込む氣力もモモ無くなつた。もう、もうこやあああつん…」

わお、先生が隅っこで蟻さん探しして楽しみ出しちゃつたよ。

先生だけズルイー！ようし、私もまざりつかな

「「「やめとけ」」」

あれ、なんかみんなにとめられちつたあ！
なーんでだろーう？

其ノ弓

*

うつわ、草古先生可哀相だな。そりやそうか、あんな奴の担任、まあつまり俺らの担任任されてるんだもんな。

そんなこんなで放課後になつちました。俺はあの女のせいでの英語を数学だと勘違いして、小テストの補習ひつかかつたんだよな（どーん）

「あー、くそっ！しかも何で俺一人なんだよー！」

「ワシもあるわい！」

…あ、草古先生居たんだ。こんなキャラだっけか？つか、やべー、
気付かなかつたよ。この先生、まさか

「幽靈！？」

「んなワケあるかあ！」

ガラッ

「たあーのもおおつう！先生、なかなか良いツツコミだね。
けどね、陽聖はボケじやなくてツツコミに育てる予定なのよー」

だから、ソックリの勉強するんぢやないのなら隠つてで蟻さんと遊んどいてね」

「先生いじめんなよ！？」

うわ、先生固まってるし。ていうか、実は緋緒が叫びながら入つて来た瞬間から固まってフルフルしてたけど、なんで緋緒は気付かねーんだろ…。

「あ、陽聖さんよ！ 地球の割り方について説明するよー。
ちやあんと黒板見といてねウハハンハン！」

うつお、先生からチヨーク引つたくつて、黒板に色々書き始めた。
悪意がないから、たちが悪いんだよなー…。

「つて、わかんねえわかんねえよ！ なんだよその記号の羅列は！」

「だからねー、重力がこんな感じで引き付けてるから衝撃はこれくらい必要で。ちなみにドーンって感じじゃなくて、グワバツキンバム富殿だあ みたいな感じで想像してもらえれば良いからーんでからー…」

やべえ、ijiに変態な天才が降臨（ふるりんじやないよ、じうりん
だよ！）してしまったよ。

後光が見える、その光が草古先生に反射して更に輝きを増し…
「草つ古せつんせー！？」

「なんまいじやー、なんまいじやー…ん？ 何じや近衛くん。ワシは
今、神に祈つとんじや。邪魔せんでくれるかな！？（くわつ）

「ボケに転向したああ！？」

駄目ですよ先生、老人がボケになつたらそこで人生は終了、じえんどですよー！」

ちなみに草古先生が祈つていたのは絯緒だ。見分けがつかないって……本格的にボケか？

んで、俺らのことなんかほっぽつたまま、経緒は式と図を書き連ねている。

すげーなコイツ、本当に神が降臨してゐる、または前世が神とかじや……

「うふふー、これで地球の生死は私の手つのなつかにいいー！」

いや、悪魔だな、うん。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2707d/>

超絶暇人 + 複雑家庭持ち = 地球破壊！？

2010年11月19日10時53分発行